

# 長岡 あーかいぶす 第 5 号

発行/長岡市立中央図書館文書資料室 <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

## ここにも歴史！襖の下張り文書

10月25日(木)から27日(土)までの3日間、浦瀬町資料整理室を会場に、新潟市の表具師・後藤光晴さんをお招きし、襖下張り文書講習会を開催しました。

中越大震災では襖・屏風に関する相談も寄せられました。約50点の襖・屏風を保管しています。これらは、地震によって破れたり、壊れた土蔵の中に保管されていた襖・屏風の下張り文書に、墨で書かれた文字が見えたことから連絡があったものです。

文書資料室では、今年度からようやく下張り文書を剥離する作業を始めました。講習会は作業の一端を市民の皆さんに体験していただくことを目的に開催しました。長岡市資料整理ボランティアのべ58人が参加しました。

今回はいろいろな方法があるうち、襖を水に浸けて剥離を行いました。襖を水に浸し、デンブンを分解するジアスターゼという液体をいれると糊が剥げやすくなります。水にぬらしたナイロン紙に剥げた文書をのせて、ナイロン紙ごと引き上げます。他の水槽に入れてやさしくすすぎます。キッチンペーパーが敷いてあるところに置き、しばらく乾かします。乾いたら吸い取り紙の間に文書をはさんで板や重石をのせます。吸い取り紙は30分から1時間で換えます。



▲ 襖の骨を外した瞬間。息を詰めて見つめます。



▲ ナイロン紙に文書をのせます。そーっとね。

後藤さんの実演を見た後、ボランティアの皆さんも挑戦しました。ゆっくり丁寧に、スムーズな作業ができました。「こんなにたくさん下張り文書があると思わなかった」、「水に浸けても墨は流れず、むしろくっきり見えてくる。和紙は乾けば元に戻り、丈夫なんだな」といった驚きの声があがっていました。

襖の所蔵者の桜井勝二さんもいらっしゃいました。桜井さんは、中越大震災後、最初に被災資料の相談を寄せてくださった方です。被災資料の救済活動に理解を示し、活動を励ましてくださいました。今回剥離した下張り文書には、「高畑」「町田」「青木」「柿」などの地名が見られ、桜井家の反故紙を使用していると思われます。ほとんどが江戸時代後期から明治初期の文書です。

文書を丁寧に慎重に扱う後藤さんの技と姿を見て、スタッフとボランティア一同、文書に対して真摯でなければ、と改めて気持ちが引き締められました。(小林良子)

## 特集 ……中越大震災から3年…

～現状と課題を報告します～

### 被災資料の活用に向けて

#### 救済活動のきっかけ

中越大震災直後の平成 16 年 10 月 29 日、文書資料室は初めての被災資料の相談を受け付けました。崩れかけた家屋の中で、破れた襖から覗く下張り文書。被害の大きさに立ち尽くしました。しかし、その時の相談者の言葉が活動のきっかけになりました。「長岡市は戊辰戦争と長岡空襲で多くの文化遺産を失っている。今回の震災でそれを繰り返すことのないようがんばって欲しい」と。

市内の被災状況から歴史資料の保存を訴えることに当初、「ためらい」を覚えていました。この言葉が、現在まで続く活動の原点になっています。

#### これまでの相談件数

平成 16 年 11 月 2 日付の歴史資料の廃棄・散逸の防止を訴える呼びかけ文書などにより、次第に相談件数は増えました。平成 19 年 10 月現在の総件数は 89 件で、相談のみの件数が 16 件、実際に損壊した土蔵や家屋から救済活動（一時保管）を実施した件数は 73 件になりました。ダンボール箱約 1,200 個の歴史資料を救済したことになります。

被災資料の一時保管後の対応状況（平成 19 年 10 月現在）	件数	整理点数
文書資料室へ寄贈（古文書等）	32	6,038
文書資料室へ寄贈（図書）	4	1,264
文書資料室へ寄託（古文書等）	2	185
目録作成後に返却	4	353
整理中	10	／
未整理（返却予定含む）	21	／

計 73 件 7,840 点

相談は、被害の大きい地域からが多く、市町村合併により小国や山古志などの新市域からの相談も増えました。相談件数は、平成 16 年度 34 件、17 年度 29 件、18 年度 19 件、19 年度 7 件と徐々に減少していますが、3 年目の現在も家の建て替えや、中越沖地震の影響などにより活動は続いています。

### 明治・大正・昭和の長岡

文書資料室では、新発見や新知見にこだわらず、土蔵や家屋で保管された現状を可能な限り尊重した方法で一時保管を実施しています。これは、歴史資料をその家に伝った状態のまま保存することにより、歴史資料のまとまり（群）としての性格を記録するための方法です。

救済された被災資料は、①長岡市史編さんの未調査資料、②個人の蔵書やコレクション、③明治以降の近現代資料が多いことなどが特徴です。



▲昭和 25 年の大手通り（田中越氏寄贈）

中央に「新潟県産業博覧会」の文字が見えます

特に明治・大正・昭和の歴史資料が多いことは重要です。戦前の図書・雑誌・新聞・教科書・写真といった「懐かしさ」を感じるもの。明治期の個人の日記や商家の帳簿など、読み込むことにより、当時の地域の歴史が解明できる基本的な記録も含まれています。また、歴史資料として認知されにくい戦後の資料も含まれています。長岡市は、二度の戦災により、藩庁文書や戦前の公文書を失っています。戦前の様々な歴史資料はもちろん、「昭和レトロ」がブームになっている昨今、戦後の歴史資料も重要であることは言うまでもありません。

近代・現代の資料は、個人・企業の情報保護の観点から、公開にあたっては慎重にする必要があります。しかし、保存することにより、後世へ「今」の暮らしぶりを伝えてくれる歴史資料となります。被災資料を様々な観点から分析し、明治・大正・昭和の長岡の歴史を語るための歴史資料として活用していくことが今後の課題です。



## 長岡市資料整理ボランティアの活躍

文書資料室の心強い応援団が長岡市資料整理ボランティアの皆さんです。これまで83人の登録があり、のべ937人が活動に参加しています。



▲葉書を差出人ごとに分類・整理しています

古文書チーム、近現代資料チームに分かれて、月2回程度の活動では、くずし字の読み方を相談したり、戦前の新聞記事に興味を魅かれたりと、保存用の封筒に表題・年代・差出・宛名などを記録しながら、いつしか談論の和が広がっています。

活動を通じて知り合いになった人も多く、恒例の昼食会やお茶の時間（先月は「みやじさま」のにしん定食を食べに行きました）も設けて、和気あいあいとした楽しい活動を続けています。十日町市古文書整理ボランティア、津南町古文書同好会の皆さんとの交流も始まりました。「災いを転じる市民の力」が、被災資料の救済活動を今も支えています。

## 被災資料が語り始める

整理・保存・活用の端緒についたばかりの被災資料です。まずは、その内容を市民の皆さんにお知らせして、興味を持っていただくことが大切です。文書資料室では、現在、寄贈・寄託され、公開している被災資料を含む古文書等の所蔵資料の解説を作成しています。また、来年度以降の『長岡市史双書』への収録、展示会の開催なども検討中です。

最終的には数万点を超えると考えられる被災資料の数々が、どのような郷土の歴史を語り始めるのか。期待は高まります。

(田中洋史)



## 「その時」、「今」は未来へのメッセージ

7・13水害、中越大震災により、私たちの生活は大きな打撃を受けましたが3年の時を経て大きく復興を遂げています。文書資料室では、その経験や教訓を次の世代に届けたいと考え、災害記録の収集を行っています。避難所に貼り出されたチラシ、手紙、会議資料、文集、行政資料等、時が過ぎると手に入らない記録の収集を心がけてきました。

今年10月、どの施設にどんな資料が存在するのかを確認するため、市内の全小中学校・高校へ「7・13水害、中越大震災及び中越沖地震に関わる記録・資料の所在確認アンケート」を実施しました。現在、回答結果をもとに学校を訪問し、所在情報の確認と、資料の収集を行っています。児童・生徒への配布物や、地震発生時の対応マニュアルなどが収集しています。

収集した記録は、市民の皆さんに活用していただくため、神戸大学図書館の震災文庫の分類表を参考に市民生活・防災・教育・医療等に16分類し、公開を予定しています。こうした記録の多くは、公開を前提に作成されたものばかりではないため、著作権者の許諾の対応が当面の作業です。



▲全国から寄せられたお見舞いの手紙

写真は、救援物資に添えられた手紙です。「明日を信じて今日も歩いていこう」とあります。災害記録を収集することで、被災地を思ってくださいる全国の人々の気持ちも大切に保存します。

(星純子)



## 山古志地域の歴史資料所在確認調査

文書資料室では、中越大震災による資料の流失や破損状況の把握と歴史資料の現状確認のため、平成 17 年度から歴史資料所在確認調査を実施してきました（下表参照）。

ようやく今年度、念願ともいえるべき山古志地域の調査を実施することができました。

歴史資料所在確認調査の実施状況

期 日	調査地区・地域	調査件数
平成 17 年 10 月 8 日	山本・新組・富曾亀	10
10 月 29 日	宮内・山通・豊田	8
11 月 5 日	十日町・六日市・太田	4
11 月 19 日	栖吉	9
平成 18 年 8 月 18 日～20 日	小国地域	29
9 月 16 日	大積	5
10 月 7 日	関原	8
11 月 10 日	山古志地域	20
平成 19 年 8 月 18 日～20 日	山古志地域	31
	計	124

### 山古志地域の調査までの経過

中越大震災によって全村避難を余儀なくされた山古志地域（当時は山古志村）の歴史資料がどうなったか。この問題は平成 17 年度から歴史資料所在確認調査を始めた文書資料室にとって、早急に取り組まなければならない課題でした。しかし、文書資料室の態勢や道路規制による現地調査の制約などで、容易に実施できるものではありませんでした。

山古志地域の歴史資料については、平成 16 年 12 月の山古志民俗資料館などの調査や平成 17 年 2 月の資料所蔵者へのアンケート調査、平成 17 年 5 月の民俗資料館及び山古志中学校寄宿舎高志寮からの資料の運び出しなど、多くのボランティアと関係者の尽力によって様々な活動が行われてきました。

また、住民の皆さんが戻られるにしたがって、平成 18 年には文書資料室に歴史資料についての相談が数件寄せられましたが、いずれも『山古志村史料目録』に名前のない方々の資料でした。この時点でも目録に記載されている 53 件の歴史資料の多くはその保存状況が把握できていませんでした。

平成 18 年 11 月、ようやく道路の規制が解除され、文書資料室では 11 月 10 日に予備調査として虫亀、竹沢、種芋原地区の 20 件を巡りました。その結果、資料所蔵者の約 20% が廃棄・不明という状況がわかり、調査の必要性を改めて実感するとともに、翌年の本格的な調査を企画することになりました。



▲山古志地域の歴史資料所在確認調査で  
（平成 19 年 8 月 20 日）

### 調査の概要

調査は、新潟県立文書館、長岡郷土史研究会と共催で、平成 19 年 8 月 18 日～20 日の 3 日間実施し、のべ 50 人が参加しました。調査先は 31 件でした。

『山古志村史目録』に記載された 53 件のうち今回の調査で確認できた件数は 20 件（約 40%）で、廃棄などの理由で残りの 33 件が確認できませんでした（不明の回答のため調査ができなかったものを含む）。資料点数で見ると、4,200 点余り（77%）が確認できました（件数に比べ数字が高いのは平成 17 年 5 月に坂牧家文書を一時保管しているため）。

山古志地域の資料点数は、この 4,200 点に加え、中越大震災後に一時保管した資料など 5,500 点、今回の調査で新規に発見された 3,000 点を合わせ、約 12,700 点と推測されます。地震によって失われた資料もありましたが、多くの資料が残されていることがわかりました。これも地域の皆さんの保存に向けた行為と村史関係者らボランティアによる救済活動があったからこそといえます。

文書資料室では、今後も歴史資料の現地での保存と活用に向けて、山古志分室と協力して取り組んでいきたいと考えています。



（金垣孝二）

## 反町 茂雄 1901.8.28. - 1991.9.4.

平成 21 年放送のNHK大河ドラマ「天地人」の主人公・直江兼統の書状 3 点が長岡市立中央図書館に所蔵されている。新発田重家の乱に関わる天正 10 年(1582)の外交文書（築地資豊宛）や、特徴ある筆跡で認められた米沢藩時代の手紙など、兼統の公私にわたる活動の一端をうかがい知ることができる貴重な資料である。この直江兼統書状を寄贈したのが長岡市出身の古書籍商・反町茂雄である。



▲直江兼統重光自筆書状（目録第 1 集No.42）

反町は、明治 34 年(1901)8 月 28 日、長岡町神田三ノ町（現長岡市神田町 3 丁目）の反町茂平の五男として生まれた。米の仲買業を営む商家であった。東京に店舗を構えていた関係で、反町は、明治 43 年に神田小学校から小伝馬町の十思小学校へ転校した。このころ読書嗜好が芽生えた。最初に読んだ「本らしい本」は、夏目漱石の『坊っちゃん』であったという。

大正 9 年(1920)に仙台の第二高等学校へ入学、大正 13 年に東京帝国大学法学部政治学科へ進んだ。そして、昭和 2 年(1927)に「東大出の住込み店員」として、神田神保町の一誠堂へ就職。昭和 7 年、一誠堂から独立し、文京区森川町に古書肆「弘文荘」を開業した。古書組合評議員、東京古書籍商業組合連合会副理事長、全国古書籍商業組合連合会専務理事、東京古典会会長、明治古典会会長を歴任。平成 3 年(1991)9 月 4 日に亡くなるまで、古書業界の発展と、貴重な歴史資料の発掘に努めた。

自伝『一古書肆の思い出』は詳細で、日本の稀書移動の記録としても重要である。例えば、第 2 巻には新潟県関係の中世文書を収め

た「越後文書宝翰集」が、昭和 18 年に反町の手を経て旧蔵者から移動した経緯が記されている。「大古文書集の出現」の吊り見出しを付け、半日ばかりで 700 通の文書を通覧した当時の様子を振り返る反町の興奮がうかがわれる叙述である。「越後文書宝翰集」は昭和 54 年に国の重要文化財に指定され、現在は新潟県立歴史博物館に所蔵されている。

その反町が、長岡市の図書館への援助を始めたのは、昭和 50 年代に入ってからのことである。亡くなるまでの間の資料の寄贈は 153 件 1592 点、寄付金は合計 3,000 万円（この寄付金で 1,421 点の資料を購入）にのぼった。図書、掛軸、刊本、錦絵、絵図、古文書など、総点数 4,013 点の資料が「反町茂雄文庫」と総称され、市民の利用を待っている。

『ペナック』第 2 号（長岡ペンクラブ、1977 年）に、反町は「互尊文庫の郷土資料のことなど」と題して文章を寄せた。当時の互尊文庫館長・内山喜助宛の手紙文のかたちをとり、日本、そして世界の図書館の在りようを述べた内容は示唆に富む。閲覧面に片寄る日本の公立図書館を、それを主要な業務と認めつつ、「郷土の古い文化財を、破壊・散逸から守り、蒐めて安全な場所に整理・貯納し、かけがえのない原資料を、後の人々のため、専門研究家のため、永久の保存を計る事」も重要な任務であると説く。『反町茂雄文庫目録』第 1 集・第 2 集に収録された直江兼統書状をはじめとする多彩な内容を眺めていると、反町が自らの考えを有言実行し、図書館への思いを郷里に託したことがわかる。

昭和 20 年 8 月 1 日、大正記念長岡市立互尊文庫は空襲により、全ての蔵書を焼失した。大勢の市民の援助と館員の努力により復興した図書館である。反町がその文庫に込めた理念を継承し、次代に伝えていくことは、長岡市の図書館の古くて新しい課題の一つである。（田中洋史）

### 【参考文献】

- ・長岡市立中央図書館『反町茂雄文庫目録』  
第 1 集 越佐文人の軌跡（1994 年）  
第 2 集 越佐郷村の古文書(1995 年)  
※同館にて頒布中。なお、第 2 集掲載資料は、  
文書資料室に移管され、閲覧可能である。
- ・小林秀夫「反町茂雄 古典籍の発掘者」  
（『ふるさと長岡の人びと』、1998 年）
- ・反町茂雄『一古書肆の思い出』 1～5  
（平凡社ライブラリー、1998 年・1999 年）



# 文書の虫

あることに熱中する人のことを「虫」と言います。(例:「本の虫」)  
ということで、誠に勝手ではございますが、文書が大好きで夢中になっている人のことを「文書の虫」と命名することにします。「文書の虫」が増えることを願いつつ、このコーナーでは、いろいろな文書をご紹介します。

## ● 包紙が守り伝えた歴史

真ん中にくっきりと円い形、四隅にはぎゅっと絞られた跡。南清四郎商店文書の一つ、漆器類の包紙に使用されていた文書です。

その中の一つ「契約証」には、「大正八年度 鉄道院三等客車用擗挽立材 長十七尺五寸 巾三寸二分 厚一寸三分 四丁 以上 柂目取りノ事」とあり、当時、上田町で材木商を営んでいた当店の様子を知ることができます。その他にも、帝国鉄道宛の「積書」(見積書)、「入札書」、「帝国鑄鋼株式会社株式申込書」、「北越石油会社入社誓約書」などの資料があり、明治・大正期の長岡の産業界を包紙から垣間見ることができます。



約百年もの間、漆器類を守りながら歴史も守り伝えてきた貴重な文書といえるでしょう。

(桜井奈穂子)

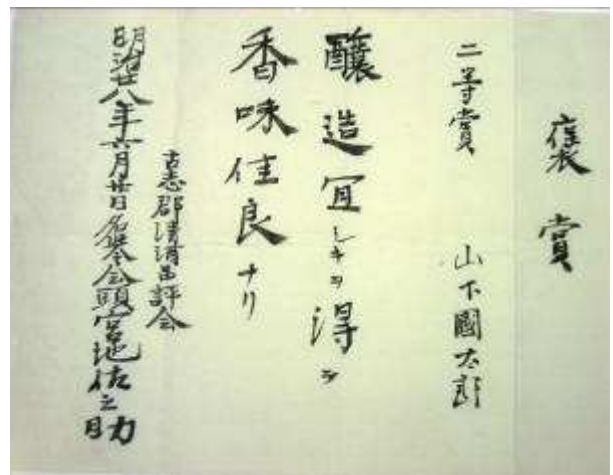


## ● 十日町の銘酒

長岡市にある清酒の蔵元は現在 17 軒です。江戸末期には長岡藩領だけでも 53 の蔵元があり、長岡市の南部に位置する十日町にも、かつては 2 軒の造り酒屋がありました。文書資料室には、そのうちの 1 軒、大坂屋(おおざかや)を営んでいた古志郡十日町村山下家文書があります。大坂屋で製造されていた「越之山」の注文書や、明治 28 年の古志郡清酒品評会で「香味佳良ナリ」と評された賞状などがあります。

文書を見ながら明治時代のお酒の味を想像するのも楽しいかもしれませんね。

(薮澤梓)



▲ 明治 28 年「褒賞」



▲ 「十日町 山下」銘のラベル

● 楢沢村における文書をめぐるトラブル



文久3年(1863)の刈羽郡楢沢村庄屋高橋家文書です。松右衛門は、庄屋の当番が終わったにもかかわらず、「役附諸帳記」を自分のところに押さえ込み、現在当番である喜三郎へ渡しませんでした。そこで、呼び出して、引き渡すように命じました。しかし、いまだに引き渡さないの代官所に再度お願いしているのがこの文書です。

ここから、庄屋の当番の間で文書が持ち回りされていたことがわかります。また、村の文書が私的に独占されることを恐れている様子もうかがえます。

▲「役附諸帳記」「旧帳」「宗門人別五人組書上帳」の文字が見える

「旧帳」が無くては、用水路を浚う人夫の割付や破損場所を直す工事のこれまでのやりかたを知ることができない、「宗門人別五人組書上帳」も無いと差し支えが出て村全体の迷惑になっている、といろいろな理由をつけて文書を返してもらおうとしています。

村の人びとにとって過去の記録や文書は、暮らしに結びついた大切なものであったといえます。



(小林良子)

● 旧日吉村役場文書を歴史的資料に

文書資料室では、合併した旧市町村の保存期間を経過した公文書の中から歴史的資料を選別・保存する作業を行っています。

三島支所に昭和31年に合併した日吉村役場文書が1,921点残されていました。

そのなかに明治42年「日吉村条例」、大正2年～8年までの「議事録綴」、他に明治12年「旧五番役一同協議之上虎列刺(コレラ)予防入費帳」、大正14年「自転車台帳」・「三島郡日吉国民学校校舎増築工事設計図」、昭和19年「警報日誌」「疎開者名簿」、昭和48年「太平洋戦争の激化に当り小学生を快く受け入れられ感謝する内容の葛飾区長からの感謝

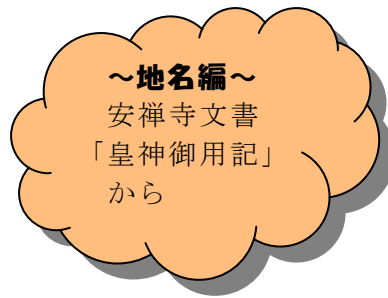
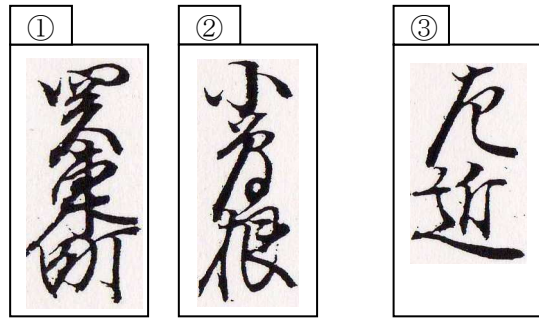
状」等、その地域に暮らす人びとの生活も公文書から探ることができます。これらの公文書は整理し、公開・活用を考えています。

(星純子)



▲ 旧日吉村役場文書(三島地域)





①～③の読みと住所・氏名・電話番号を記入のうえ、はがき・FAX・メールで文書資料室へお送り下さい。3問すべてに正解した方の中から抽選で5名に粗品を差し上げます。

平成20年2月1日(金)必着です。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

【前回の答え】①三之宮 ②高見 ③土合

《新たに公開した所蔵資料一覧》 ※寄贈・購入年月日順

- ・雑誌『写真週報』他(23点、近代・現代、権沢恵子氏寄贈)
- ・西蔵王山崎家文書(625点、近代・現代、北越製紙関係・『長陵』『互尊獨報』他、鈴木利子氏寄贈)
- ・吉川屋商店文書(18点、近代、舟茂恵子氏寄贈)
- ・古志郡長倉村文書(15点、近世・近代、「長倉村絵図」他、品川文一氏寄贈)
- ・佐藤家文書(57点、近代・現代、「長岡市修正宅地価」他、佐藤孝治氏寄贈)
- ・古志郡谷内村中川家文書(75点、近世～現代、王神祭関係、中川賢司氏寄贈)
- ・南清四郎商店文書(20点、近代、南正三氏寄贈)
- ・チューリップストア包装紙(1点、現代、三浦則夫氏寄贈)
- ・三島郡島田村田村家文書(12点、近代、田村吉雄氏寄贈)
- ・軍隊手牒(1点、近代)
- ・古志郡十日町村山下家文書(238点、近代・現代、酒造関係、山下文子氏寄贈)

●図書コーナーが充実しました！

市民の方から、郷土の歴史に関する図書や雑誌、計1,201点をご寄贈いただきました。『日本史研究』第17号～第470号(385冊)、『歴史学研究』第254号～第731号(394冊)といった雑誌のバックナンバーも揃っています。文書資料室の図書コーナーで閲覧・複写ができます。地域の歴史をお調べの際は是非ご利用ください。(稲垣美知子)



平成19年11月15日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室  
スタッフ／金垣孝二、星純子、稲垣美知子、  
小林良子、桜井奈穂子、田中洋史、  
薮澤梓

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20  
(長岡市立互尊文庫2階)

Tel 0258-36-7832、Fax 0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp

《編集後記》第5号は、中越大震災から3年間の活動を特集しました。災害をきっかけに、資料所蔵者・ボランティア・自治体・大学等いろいろな個人・団体とともに被災資料の保存・活用の取り組みをしてきました。「人」を大切にしたいという同じベクトルをスタッフが持ち、これからもチームワークで精力的に活動していきたいと思えます。(小林)